

今月2月23日(土)はロータリー創立記念日ですので、5回に分けてロータリー誕生の話をします。

なるべく正確な内容にするために、田中毅PG・中嶋邦明PGの文献を引用して記述しました。

ロータリーの創始者ポール・ハリスは、1868年4月19日ウイスコンシン州ラシーンで生まれました。彼の家系については、父方がスコットランド系、母方がアイルランド系の移民であること以外、詳しい事は判っていません。

父方の祖父、ハワード・ハリスはウォーリングフォードで農園を経営し、この町の有力者となりました。

母方の祖父、ヘンリー・ブライアンは、ラシーンの市長を勤めるほどの有力者だったにもかかわらず、金鉱探査に失敗して無一文になったといわれます。父ジョージ・ハリスはドラッグストアを経営する傍らで、生来の豊かな才能を生かして、著述や発明やいろいろな事業に興味を示す多芸な人でしたが、一攫千金を追うあまり、自分の本業を堅実に営むことができないたちでした。母コーネリアは、裕福な家庭に生まれたことも手伝って、金銭感覚にうとく、家計が火の車の状態であっても、メイドを雇う事を当然に権利だと考えるタイプでした。不安定な収入と、放漫な支出の結果、乱発した小切手が、ジョージの支払い能力を超え、遂に破産と一家離散という最悪の事態が訪れます。

気位の高い母親は、ラシーンを離れて舅の世話になることを断って、幼い娘のニーナ・メイと共に、借家住まいしながら、音楽教師で生活の糧を得る途を選び、当時五歳の長男セシルと三男ポールは、バーモンド州ウォーリングフォードで農園を経営している祖父ハワード、祖母パメラに預けられることになりました。

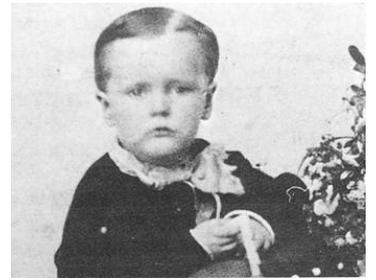
それは1871年の暑い夏の夜のことでした。「私の意識の繊細な記録として、この光景があまりにも深く焼き付いているので、生涯消し去ることはできません。」失意に満ちたハリス一家が、ウォーリングフォード駅からハワードの家まで歩いた光景を、ずっと後になってから、次のように回想しています。

『背の高い祖父は暖かくて力強い手で、私の固く握りしめられたこぶしを取りながら通りを歩きました。それは厳粛な小さな行列であり、その厳粛さは夏の夜の荘厳な静寂と暗さによって、一層強調されました。私達が、快適そうに見える家のサイドベランダに近づくと、ドアが開いて、黒い瞳の年配の婦人が明るく灯された灯油ランプを掲げながら、優しく出迎えてくれました。後で私は、彼女が正確には89ポンドの体重しかないことを知り、たびたび受け取った綺麗に包装された贈り物の包みのことを思い出しました。この掛け値なしに素晴らしい人こそ、私の祖母でした。彼女は、分厚く切られた手作りのパン、ピッチャーに入った搾りたてのミルク、皿に山盛りになっているブルーベリーを、セシルと私に出してくれ、私が夢中で食べているのを見て微笑みました。静かなひとときが、私達の間流れ、私は即座に祖母と私がすぐに打ち解けあえるに違いないと思いました。』その後何年か経って、祖父ハワードの援助によって、父の事業が再建され、家族が一緒に生活できたものの、再びジョージの豊かな才能、即ち趣味の域を超えた発明癖が災いとなって破産を繰り返し、その度にポールが祖父母に預けられるという生活が繰り返されました。

生涯を通じて、両親の愛情にこそ恵まれなかったものの、決して不遇な少年時代を過ごしたわけではありません。ニューイングランドの素朴で信仰の篤い清教徒に囲まれて育った環境に加えて、厳格であり、かく愛情のあふれる祖父母と医師の職業を仁術と心得ていた父方の叔父ジョージ・フォックスは、彼の人格

形成に大きな影響を及ぼしたと言えるでしょう。

宗教的迫害をうけてイギリスから逃れてきた清教徒達が、このアメリカ東海岸に安住の地を見出し、その精神を受け継いだ祖父母に育てられたことや、その環境の中で多感な少年時代を過ごしたことが、ポールの心に強いピューリタニズムを植え付け、それが後日ロータリーの思想の根底となったことは疑うべくもありません。



ポール・ハリス3歳



父 ジョージ・ハリス 母 コーネリア



祖父 ハワード・ハリス 祖母 パメラ



ポール・ハリス8歳



ポール・ハリス14歳